

滋賀森林インストラクター会

会報・第26号

2020年6月27日



雨上りの棚田（2020/6/13 高島市高島町畑）

目次

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 新型コロナウイルス流行禍の会員の活動 | 2～8 頁 |
| 小西 民人/関澤 友規子/佐々木建雄/高橋 優 | |
| 2. 大砂川の森整備活動 | 安田 浩一 9～11 頁 |
| 3. 令和2年度事業計画～修正版～ | 事務局 12 頁 |
| 4. 新加入会員の紹介 | 13 頁 |

～新型コロナウイルス流行禍の会員の活動～

今年の4/07に新型コロナウイルス感染予防の対策のため、政府が緊急事態宣言（7都道府県）を出したが、それ以前の3月ごろから各府県知事が府県をまたがる移動の自粛を求めています。4/16に緊急事態宣言が全国へと範囲を広げられると、感染の原因となる人と人の交流を避けるための自粛要請は一般商店や飲食店、宿泊施設などまで及び、公園や図書館などの公共施設も閉館されました。そして、さまざまなイベントが中止となって、森林インストラクターとしての活動の場がなくなりました。

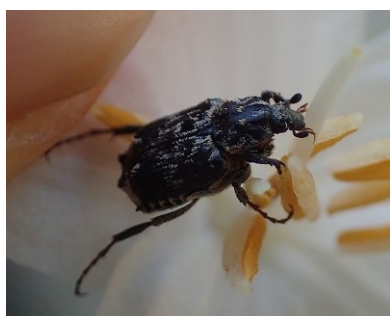
「ステイホーム」と都知事やらメディアがうるさく、会員の皆さんは家に閉じこもるか、近場に出かけるかしかできないこの数か月だったことでしょう。しかし、自粛期間中でもたくましく生きる森林インストラクターが個人的に活動している事例が何かないですかとお願いして、小西さん、関澤さん、佐々木さんが原稿を送ってくださいました。それに事務局高橋の報告も加えて4事例紹介します。

新型コロナに罹らないための私の自粛(?)生活

小西 民人

新型コロナの影響で自粛を求められた5月でしたが、家に閉じこもるのは逆にストレスが溜まり、体調を悪くすると考え、できるだけ紫外線と森のフィトンチッドを浴びることを目的に、3密でなく3空の外に出るようにしました。といっても、家の庭が多かったですが。

出た先で見られたものたち、昆虫類（クモも含む）11種と帰化植物2種を掲載します。



ヒラタハナムグリ(コガネムシ科)



ハンミョウ(オサムシ科)



ヒメマルカツオブシムシ(カツオブシムシ科)



オオツマグロハバチ(ハバチ科)



フタモンアシナガバチ (スズメバチ科)



ホソヒラタアブ (ハナアブ科)



ヒメマダラエダシャク (シャクガ科)



ホソハリカメムシ(ヘリカメムシ科) ハラビロヘリカメムシ(同左) ヒメチャバネオカメムシ(カメムシ科)



ワカバグモ (カニクモ科)



ヤサカフウロ (フウロソウ科)
ヨーロッパ原産



ミドリハカタカラサ
(ツクサ科) 南米原産

※ ヒメマルカツオブシムシは衣類などの害虫です。かわいいと思ったら大変。
オオツマグロハバチは成虫になると肉食。獐猛ですが、針はありません。

ウバメガシのどんぐりが初めて見つけた話

関澤 友規子

我が家の生垣はウバメガシ。30年前に建て直した時からの亡き義父の遺したものです。じつはどんぐりを見た覚えがありません。この1月に奈良・橿原神宮でのNPOの観察会の担当になった際、イチイガシ、アカガシ、スダジイ…などのどんぐりは沢山拾ったものの、下見時も含めてウバメガシのどんぐりが少ししか拾えず不思議に思いました。春になってウバメガシの「雄花」の話が出て、そういや我が家ではどんぐりどころか雄花も見つけないし…と。ところがコロナ自粛の4月に雄花を見つけたのです。



4月16日の雄花(写真左)。垣根の天辺近くから数本ぶら下がっていました。

では雌花は？と探したものの、なかなか…やっと4月20日にこちら(写真右)を見つけあるんや〜と大喜び。雄花共々「垣根の裏側」に数個だけですが。

ウバメガシは2年成のどんぐり。これは今年の赤ちゃんと言う事で来年の、ですが6月上旬になってもまだこんなチビさん。



しかし、その傍にもう1つこれも見つけて…！！
これこそ2年生、この秋のどんぐりです。直径5mm程。よく残



っていてくれました。この1年生と2年生は同じ徒長枝の上と下にいますが、良く見たら近くに1年生も沢山。

雄花は「新しい枝」の下の方

に垂れ下がり、雌花は先端の葉脇に、ですね。毎秋家人が剪定するので「伸びた枝」ごと花芽がそのまま落とされていたのか…橿原神宮のも垣根だったし…と納得した次第です。今年はここは伐ってはNG

やからね、と家人にも強くお願いした次第。この秋の剪定時には枝にピンクのリボンでも付けましょうか。ウバメガシは千葉が北限の海沿いに自生ですが、備長炭でも有名ですし垣根や街路樹にも。皆さまのお近くではどんぐりは如何でしょうか。

因みに我が家にはもう1種「チリメンガシ」があります。これはウバメガシの変種で、京都市内某所の木の下に落ちてたどんぐりを数個拾って、鉢に播いたのが数年前。



2016年の芽生え（写真左）。全然「縮緬」と違うけど、まあいずれは…と思ったものの、2020年4月でも…（写真右）。

その元のチリメンガシはこんなの（写真下左）。正に「縮緬」ですよ。変種なので、そのどんぐりから発芽しても「普通のウバメガシ」になる事が多い、とも聞きますが、本当にその通りのよう

で。。



我が家のウバメガシ（写真下右）も良く見ると細長いのや丸っこいのや、葉脈もつるつとしたのから凸凹の多いものまで色々なタイプの葉があり、なるほどこの中から「縮緬」状のを選抜しての結果なのだなとも思った、そんな自粛の春でした。



緊急事態宣言下での野外活動

佐々木 建雄

クラスター、オーバーシュート、パンデミック、ロックダウン、ソーシャルディスタンスなどカタカナ英語のオンパレード。これだけの言葉を、どれだけの人が理解しているのだろうか。新型コロナウイルス騒ぎが始まって、政府、行政機関、マスコミなどがこぞって使っている。

危機管理が徹底されなければならない事態に直面し、今までに聞いたこともないような言葉を並べて、国民に徹底できるのだろうかといささかの腹立ちと不安を覚えるが、日本での感染拡大は爆発的なものとならず、感染者数が低位で推移しているのは不幸中の幸いである。

さて、緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出は自粛せよとの要請が出たとたん、スケジュール帳の中身がほとんど二重線で消され、自由に使える時間が一気に増えた。

そんななか、「やまのこ」の仲間から**竹林整備**と**筍掘り**のお誘いがあった。移動は車、活動場所は密の心配無用、適度な運動と気分転換になるとあって、即参加を決めた。

案内されたのは甲賀市の里山で、竹林に入ってビックリしたのは、竹の巨大さ。標準的な孟宗竹の直径は10cm程度であるが、ここの孟宗竹は15cmを下らない。筍もそれに見合う大きさであるから、掘り出すのは一苦勞。一本掘るのに1時間もかかり、筍掘りは体力勝負であることを認識した次第である。しかし、苦勞のかいあって収穫は土のう袋に満杯。隣近所へのおすそ分けもできた。これに味をしめ、筍掘りには3回も出かけた。また、別途、枯れ竹の処分や間引きなどの純粋な整備にも3回ほど参加した。



竹の巨大さは左の写真の通り。普通の湯飲み茶碗との比較であるが、この竹の直径は15cmであった。この器は植木鉢として使う予定。

また、右の写真のような立派な根竹もゲット。何に使うかは目下思案中。笛にでもならないかと思っはいるが…。



さて、竹林整備を機に、竹に関する豆知識を少し。

普段、よく耳にする竹の種類は、孟宗竹、真竹、破竹が代表的なものであるが、日本の竹の約90%はこの3種類が占め、これを称して「日本三大有用竹」というそうである。そして、この三大有用竹の見分け方のポイントを下表に示したので、ご参考になればと思う。

孟宗竹（モウソウチク）	真竹（マダケ）	破竹、淡竹（ハチク）
 ・節の隆起線が1本 ・日本の竹では最大 ・タケノコが美味	 ・節の隆起線が2本 ・節間が長いのでザル、カゴなど細工物の材料として利用	 ・節の隆起線が2本 ・細かく裂くことができるので茶筌の材料として利用
 ・筍の皮は茶色 ・模様はない ・表面に産毛がびっしりと生えている	 ・筍の皮は赤紫に近い色 ・斑点模様がある ・表面に毛はない	 ・筍の皮は薄い茶色 ・模様はない ・表面に毛はない

瀬田川河岸の真っ赤な卵塊

高橋 優

コロナ禍の自粛期間中、ステイホームと言われて家にじっとしては身体がなまってしまいます。そのため私は、近所の瀬田川河畔や瀬田川の支流沿いの道を散歩していました。瀬田川と京滋バイパスが交わるあたりです。そこで、不思議なものを見つけました。何かの生物が産み付けたと



思われる赤い卵塊です。川面から20cmぐらい上がった石に産み付けられていました。卵径はイクラより少し小さ目、初めて見るものです。

触ると表面は乾いて硬くなっています。一部を潰してみると真っ赤な卵液が出てきました。周りを探すといくつも卵塊があり、瀬田川に流れ込む細い支流の岸壁にも産み付けられていました。

後日、近江大橋近くの瀬田側岸壁でも見つけました。広く分布しているようです。



別の卵塊



護岸のコンクリートの卵塊



卵の一部を潰すと真っ赤

こんな目立つ卵を水中ではなく空気中に産卵するのが謎ですが、貝類の卵ではないかと思当をつけてインターネットで調べてみると、簡単に分りました。南米原産の外来種スクミリンゴガイ（腹足類リンゴガイ科、学名：*Pomacea canaliculata*）です。大型の巻貝でジャンボタニシという別名がある。

原産地から世界各地へ移入されており、日本には'81年に台湾から食用として持ち込まれたようです。熱帯魚を飼育する水槽の苔取り貝としても売られています。養殖場から逃げ出して関東以南各地で野生化し、稲などを食害する有害生物となっています。

『日本の侵略的外来生物ワースト100』に選定されており、滋賀県では『ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例』で強い影響のある特定外来種A類に指定されています。指定された2007年当時分布は野洲市周辺に限られていたようです。2012年の琵琶湖博物館の調査報告でも分布は野洲市周辺の湖岸でした。近年、分布が拡大しているようです。



スクミリンゴガイ と 産卵の様子

卵を陸上に産むのは孵化に酸素が必要なためで、水没すると孵化しないとのこと。卵は有毒で赤い色は警戒色かもしれません。1卵塊に200～300の卵があり、産卵頻度は3～4日に一度、約10日で孵化し、2ヶ月程度で成熟するという。

スクミリンゴガイは鰓と肺様器官を持ち、水中では鰓呼吸、空気中では肺呼吸し、雨の日などは畦も横断して田んぼにまで侵入する。乾燥した条件では口蓋を閉じて代謝を下げ、長期間生存できるようです。繁殖力が強く分布を広げているのを理解できますね。

右の写真は、瀬田湖岸で見つけたアシの茎に産み付けた卵塊です。このように稲の茎にも産み付けるのかもしれません。（国立環境研究所「侵略生物データベース」参照）



「大砂川の森」整備活動について

～この1年の活動を振り返って～

安田 浩一

2017年11月19日の第1回目の活動日より約2年半にわたり、大きな事故や怪我がなく活動できてきたことに感謝しています。また、当初より滋賀森林インストラクター会の協力が得られありがたく思っています。

毎月1回第3日曜日を活動日としていますので、2年半で30回ぐらい森林整備活動を行ったことになります。当初に比べ「大砂川の森」はずいぶんスッキリしました。落葉している時期に見ると切りすぎたかなと感じていましたが、6月の今見るとちょうど良いかなと思えます。

整備が進むにしたがって、また月に1度でも現地へ行くことによって、対応しなければならないことなども少し見えてきたように思えます。

今後は、現場のヒノキ材による小屋づくりを作業の中心におきながら、森林内で活動していく中で、この森の可能性や発見や工夫、また、クラブ員同士の交流が進むことを願っています。

それでは、この1年間の活動状況を簡単に報告します。

○2019年7月21日 曇り 参加者10名（内 女性5名、子供1名、滋賀会1名）

活動内容；看板設置2カ所



○2019年8月18日 参加者4名（内 滋賀会1名）

活動内容；時計型ストーブでお湯を沸かし、コーヒーを飲む。暑いので作業せず

○2019年9月15日 晴れ 参加者6名（内 女性1名、子供1名、滋賀会2名）

活動内容；山小屋用のヒノキ1本伐採。佐々木会長による皮むき指導

○2019年10月20日 晴れ 参加者7名（内 女性3名、滋賀会2名）

活動内容；茶沸かし。前回のヒノキを人力運搬。大砂川の丸太橋復旧。ヒノキの皮むき



○2019年11月17日 晴れ 参加者24名（内 女性7名、子供11名、滋賀会1名）

活動内容；茶沸かし。ヒノキ2本伐採。残材の片づけ。親子組がトランポリンで遊ぶ。ブランコ手直し。昼食用軽食づくり

○2019年12月15日 晴れ 参加者13名（内 女性4名、子供4名、滋賀会1名）

活動内容；三雲新春ウォーキング*の下見。ヒノキ1本伐採、皮むき。ターザンロープ設置。昼食のラーメンづくり

*2020年1月3日に開催された八丈岩まで歩く新春ウォーキング。「大砂川の森」の活動の一環として協力。道案内やぜんざいづくりを実施。ウォーキングには約100名の参加者があった。

○2020年1月19日 晴れ 参加者14名（内 女性6名、子供4名、滋賀会2名）

活動内容；茶沸かし。ヒノキ1本伐採。佐々木会長による伐採作業、受口・追口の説明。昼食のすいとん作り。小屋の模型作成。

○2020年2月16日 雨 参加は安田浩一ひとり。茶を沸かし、テント内の整理をする。

○2020年3月15日 晴れ 参加者19名（内 女性6名、子供7名、滋賀会2名）

活動内容；大工さんによる小屋づくりの指導。ヒノキ1本伐採。予定本数を終了。昼食はうどん



○2020年4月19日 雨のち晴れ 参加者4名（内 女性1名、滋賀会1名）

活動内容；菌打ち済みの原木を森に設置。昼食はこごみと椎茸の天ぷら（なぜか1年目なのに椎茸1本収穫）

○2020年4月28日 晴れ 森のようちえんネットワークの方が「大砂川の森」を視察、交流。

活動内容；竹林の片づけ。ミツバチ用の養蜂箱を設置。

○2020年5月17日 曇り 参加者16名（女性3名、子供2名、滋賀会3名）

活動内容；ヒノキの皮むき。竹林伐採。昼食はうどん



○2020年6月21日 晴れ 参加者16名（女性5名、子供4名、滋賀会3名）

活動内容；ヒノキの皮むき。草刈り。丸太橋の復旧。横断幕の滑り台遊び。昼食は冷やしうどん

2020-1-19 の活動



2020-5 月、6 月の活動



～令和2年度滋賀会事業計画(修正版)～

滋賀森林インストラクター会事務局

本年度はコロナ禍の影響で滋賀会総会が開催できず、メールで会員の皆様に事業計画を承認していただきました。しかし、計画していた多くの事業が延期や中止となっており、それらの変更を反映した事業計画（2020-6-25 現在）を下に掲載します。

(1) 事業

日 時	場 所	事業内容等
R02.4月～ (第3日曜)	大砂川の森 (湖南市三雲)	・ふれあいの森作り活動 森林整備と活動ハウス作り
R02.6月 ～R03.3月	県内の4地区 未定	契約締結(7月) 緑少指導者研修会(滋賀緑化推進会主催 上期) 緑少個別指導研修会(各少年団主催 通年)
R02.6.06(土)	ビラデスト今津 (高島市今津町)	「緑のしずく祭」(滋賀県主催の「山の交流会」代替え事業)ー コロナ感染予防のため中止 ・テーマ、展示内容検討中
R02.7.04(土)	ビラデスト今津 (高島市今津町)	緑の少年団地区交流会(緑の少年団滋賀県連盟主催)ー ・樹木観察(2Hr)、計画参加者50名 コロナ感染予防のため中止
R02.6月 ～11月	鈴鹿山地 (東近江市内)	「100年後に残したい鈴鹿の森」追加調査 東近江市「森と水政策室」から調査依頼受託(6月) 昨年度の調査個所以外の7箇所を調査する計画
R02.11.22(日)	みなくちこどもの森 (甲賀市水口町)	緑の少年団「グリーンジャンボリー」 (緑の少年団滋賀県連盟、滋賀県植樹祭推進室など主催) 水源の森をテーマに県外からも参加を求める予定。ただ、全国植樹祭が延期されたため、規模を縮小して開催

(2) 研修会

日 時	場 所	事業内容等
R02.4.29(祝) R02.6.28(日) R02.10.25(日) R02.11.15(日)	余呉 椿坂峠 奥永源寺 愛知崖 沖島 鈴鹿の上高地	・滋賀会定例研修会
未定	未定	近畿連絡会研修会(滋賀会主催) 来年に延期
未定	合併記念の森 (京都市京北)	・林業体験研修会 京都会の間伐活動に参加

～新入会員の紹介～

この度、新しく西 有希子さんが滋賀会に入会されました。自己紹介のご挨拶をいただきましたので、下に紹介します。ありがとうございます。（イラストは勝手に事務局が付けました）

滋賀会の皆さん、はじめまして。4月に入会させていただきました西 有希子です。

8年前に、結婚を機に北海道から滋賀に引っ越して来ました。北海道では、北海道森林インストラクター会の研修などには参加していたものの、インストラクターとしてガイドするような経験は恥ずかしながらほとんどありません。それでも、北海道の職員として林務行政に携わっていたので、全国植樹祭や森づくりイベントの手伝い、地域活動団体との関わりなど、通常業務以外でも色々な経験をさせていただきました。

滋賀に来てからは特に活動はしていませんでしたが、山の中腹にある寺に住んでおりますので、良くも悪くも毎日色々な生き物に出会う、森林とは切っても切れない生活をしています。寺の番や子育てで、なかなか自由に外出できない状況ではありますが、マイペースで参加させていただけたらと思っております。

こんな私ですが、どうぞよろしくお願いいたします。



編集後記

コロナ自粛のなか、活動がほとんど実施できなかったここ数か月でしたが、なんとか会報第26号（2020年度上半期号）を発行することができました。自粛期間中の会員の個人的な活動を集めて見ました。寄稿していただいた方に感謝します。

表紙の写真「畑の棚田」は、梶谷副会長の提供です。滋賀県で唯一「日本の棚田百選」に選ばれています。梅雨の雨の合間に淡く霞む棚田と農家の美景です。

「畑の棚田」の撮影されたころ、梅雨入りははじめの大雨で増えた琵琶湖の水位を下げるため、瀬田川洗堰が全開放流されています。全開で700m³/秒以上で放流され、湖面と瀬田川の水位が同じになり、3kmほど下流の鹿跳橋あたりはもの凄い激流になっていました。



全開放流された洗堰（6/14）



鹿跳橋の激流（6/14）

（高橋）